



津偕楽公園と博覧会

今月から伊勢市を会場にお伊勢さん菓子博2017が開催されます。菓子の博覧会の歴史は明治44(1911)年に当時の東京府で開催された第1回帝国菓子飴大品評会にさかのぼります。明治時代は殖産興業政策に力が入られ、各地で博覧会や共進会が開かれました。博覧会は、文明開化を求める人々に新しい知識を与え、新しい産業・文化の集大成としてその実態を見せる唯一の催しでした。

津では明治6(1873)年に専修寺を会場に一身田博覧会が、明治11(1878)年に津公園(津偕楽公園)で三重県内物産博覧会が開催されています。そして、とりわけ規模の大きかった博覧会が、明治40(1907)年の4月から5月にかけて、津偕楽公園から津駅付近一帯を主会場とした「第九回関西府県連合共進会」でした。

この博覧会は関西の府県をはじめ、東は静岡県から西は山口県までの2府20県が参加する大規模なものでした。会場の広さは約15万㎡に及び、各府県の農工特産品を陳列する本館や参考館、各種発明製作品や機械を展示する特許品陳列館、美術品・水産品陳列館などの建物が建ち並びました。



共進会参考館(絵はがき)

夜には、7,000個以上の電飾(イルミネーション)がともって、建物が浮かび上がるように見え、不夜城のようだと評判になったそうです。2カ月間の会期中、約78万人もの人出でにぎわい、1日の入場者が当時の津市の人口約3万8,000人を上回ることもあったといえます。博覧会は今も昔も人々の心を引きつけてやまないイベントと言えるでしょう。

このように、かつて大規模な博覧会会場に利用された歴史のある津偕楽公園は、昭和38年に市指定の史跡名勝になりました。四季折々の花木と風趣に富んだ園庭は、その名のとおり「人々が偕に楽しむ場」として親しまれ、今も市民の憩いの場となっています。

第九回関西府県連合共進会全景図



第九回関西府県連合共進会全景図

